

## 都立青山高校創立 80 周年の記念の会

### 祝辞

一般財団法人外苑会  
会長 後藤尚雄

在校生の皆さん、教職員の皆さん、PTA の方々とともに、青山高校の「創立80周年」をお祝いさせていただきます。「コロナ禍」のなか、不自由な高校生活を送られてこられたと思いますが、澆漑とした、知性あふれる皆さんの顔を拝見し、安心しました。

私たちの外苑会の総会と懇親会が10月17日に開かれました。本来なら「創立80周年」を記念して昨年10月に、新しくなった、ここ日本青年館で開催する予定でした。しかし、残念ながら、「コロナ禍」で、懇親会は延期となりました。

今年は初めての「オンライン」方式での開催に踏み切りました。発信拠点になった青山高校の5階ホールには、幹事学年の1983年卒業の企画委員や、外苑会の理事が集まり、Zoom の向こうから、海外も含めて400人が参加しました。

青山高校の卒業生、同窓生は様々な分野で活躍しています。

オンラインで流した「映像メッセージ」には4人の同窓生が登場しました。俳優の石田純一さん、日本銀行副総裁の兩宮正佳さん、ジャズピアニストの守屋純子さん、そしてスープ作家、数百のレシピを紹介してきた有賀薫さんです。それぞれが、青高時代の思い出や、いまにどうつながっているのか、を話されました。

ちなみに、11月3日の「文化の日」に、旭日小綬章を受章された俳優の橋爪功さんは、青山高校の演劇部の出身です。10月7日に急逝された人間国宝、柳家小三治師匠は、落語研究会におられました。

オンライン懇親会では、いまの青山高校の紹介映像も流しました。案内役は、2年生の女子生徒のお2人(注:祝辞では名挙げ)です。「青高のいま」をリアルに知ることができた同窓生は、私も含め様々な感慨を抱き、大好評でした。この場をお借りして、お2人にお礼を申し上げます。

先ほどの「映像メッセージ」に登場された4人が、異口同音に強調したのは、青山高校の「自由な校風」「リベラルな伝統」です。

私は、こう考えています。その自由、リベラルは、自ら学び、考え、自ら道を切り拓くもの。それぞれの個性を尊重し、多様性を認め合うもの。リベラルはリベラルアーツ、一般教養につながり、知性と歴史に敬意をはらうもの、です。

石田純一さんは、源氏物語などの古典文学にも造詣が深く、それを解説するラジオ番組も持っています。両宮副総裁は落語研究会の出身で、その先輩たちと年に1回、公演を続けてきました。ピアノ演奏も趣味のひとつです。

私は石田純一さんと同級生です。社会も高校も激動した時代であり、ビートルズの全盛期でした。三島由紀夫や「奥の細道」から、哲学書や歴史書まで、あれこれ読みました。近くの国会図書館にも、幾度となく通ったことを思い出します。

大学では経済学を専攻し、朝日新聞社の経済記者、論説委員などのあと、役員を10年間、務めました。いまは、ある公益財団法人のほか、ご縁があつて、奈良の東大寺や興福寺の信徒総代という役員もお引き受けしています。

同窓会は2015年に、まだ外苑会が正式名称になる前ですが、青山高校の「創立75周年」記念事業として、こちらの校旗と、体育館・講堂の舞台幕を寄贈させていただきました。

2020年1月の「創立80周年」に向けては、奨学金制度を創設しました。今年度で5年になります。

奨学金はいうまでもなく、外苑会の会費、同窓生からの寄付があてられています。その寄付額は増えています。在校生を、後輩の皆さんを、学業を応援したい、という、熱い、切なる思いが込められています。

開会にあたり、青フィルの皆さんが校歌を演奏してくださいました。校歌が誕生したのはいまから63年前、1958年です。当時の2年生が作詞し、映画音楽などの作曲家としても活躍されていた卒業生が譜をつけてくれました。校舎が、いまの国学院高校の所にあつた旧陸軍の建物から、現在の地に移転した年です。

「早緑におう」で始まる校歌には、「自由」「知識」「文化」「理想」などの言葉が散りばめられています。これらの言葉を胸に刻み、自ら学び、考え、未来を切り拓いていたことを心から願い、「創立80周年」に寄せる祝辞とさせていただきます。